岩 手 県 支 部　委員会・研究会 活 動 報 告

活 動 名	令和7年度河川研究会現場研修　（CPD 番号7-3）
主　催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部河川研究会
日　時	2025年 9 月 26 日（金）　10：30　～　15：00
場　所	（1）盛岡市　（2）滝沢市
参加人数等	会員：15人　説明：国土交通省北上川ダム統合管理事務所職員 岩手県盛岡広域振興局土木部職員

活　動　内　容

１.事業概要　（１）四十四田ダム改修計画 (目的) 四十四田ダム嵩上げと御所ダム操作規則変更により盛岡市街地の洪水被害軽減。（事業）北上川上流ダム再生事業(事業費)約300億円(事業期間)H31（R元）-R10予定（諸元)ダム高50.0→52.0m、堤頂長480→560m、総貯水容量4,710→5,460万m^3 、有効貯水容量3,550→4,300万m^3湛水面積3.9→4.3km^2（２）北上川・松川河川改修:(目的)H25年9月台風第18号豪雨浸水被害再度災害防止、盛岡市玉山地区を守る。(事業)広域河川改修事業(事業費)約31億円(事業期間) H27-R25(諸元)事業区間：北上川9.7km松川6.0km、河道拡幅、築堤、護岸工、樋門　（３）木賊川遊水地 (目的)H14洪水等度々発生する浸水被害軽減。盛岡市・滝沢市街地を守る。(事業)広域河川改修事業(事業費)約160億円(事業期間) S61-R29(諸元)河川改修4,400m、分水路1,600m、遊水地31.0ha、築堤、掘削、護岸等

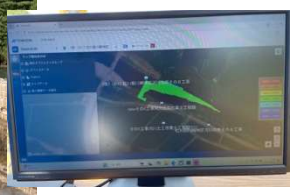
２.現場研修（主な質疑応答）

（１）四十四田ダム ①昭和43年竣工で57年経過したダムコンクリート状況は？→過去の調査結果では強度に問題なし。②ダム嵩上げ材料は？→調達状況を勘案し今後決定する。 ③工期は？→令和10年度と記載あるが見直す予定。④ダム湖堆砂のヒ素の由来は？→旧松尾鉱山の強酸性水を水質改善するため投入された中和剤による中和生成物が由来　等。

（２）松川 ①バックホウの点群データのセンサー密度は？→バックホウバケットに20cm格子間隔でセンサーを設置。②ICT施工重機操作は研修必要か？→研修は行っていない。現場で習得できる。③ICT施工に係る仕様書の出来型管理は？→出来形管理は点群でOK。現場チェックも行う。 ④ICT施工により効率化はどの程度図られたのか？→丁張り、現場確認の人員を減らすことができる。その分他の作業に従事させることができるようになった。⑤ICT施工は受注者希望型か発注者指定型か？→発注者指定型である。⑥2次元図面を3次元データに変換するのはどなたが行なっているのか？→自社の職員（経験年数7年）が行なっている。等。

写真（１）四十四田ダム:盛岡市＜左：VRによるダム嵩上げイメージ紹介　中：集合写真　　右：監査廊＞

（３）木賊川遊水地 ①事業費はいくらか?完成はいつか？→事業費は約15,955百万円、完成は令和29年度予定（大規模公共事業再評価調書より）②河川改修のみでは？→市街地化が進み川幅を拡げることに制限あるため遊水地と一体で治水対策を行うもの。③付近に住んでいる。遊水地は面積が広いため多くの希少野生動植物が生息していることがわかった。④遠隔重機の利用メリットは？→基本は危険な現場における作業を行うこと。等



写真（２）松川：盛岡市＜ICT建機による掘削＞　　写真（３）木賊川:盛岡市、滝沢市＜遠隔重機、分水工＞

（河川研究会代表　髙橋　記）